

変わっていく思春期の「からだ」と「こころ」を大好きになる

特定非営利活動法人 子ども & まち ネット

〒464-0076 名古屋市千種区豊年町 3-18 UR 都通団地 1-111

助成事業の概要

【目的】

思春期を迎えた障がいのある子ども・若者が、自身の身体の変化に戸惑い不安定になりがちなか中、彼らを支える周りの保護者や支援者（障害児者支援の事業所職員、相談員、教育関係者等）らが「性と生」について正しく学び、日々の暮らしや支援の中で学びを活かし、障がいのある子どもや若者の想いや悩みに寄り添い伝えることができるようになることを目的に、保護者・支援者向け研修を実施した。

【研修内容】※研修は全てオンライン

研修（1）「社会福祉現場の性の支援の取り組みと課題」・当事者に合わせ支援とは？

日時：2020年11月22日（日）10：00～12：00

講師：木全和巳（日本福祉大学社会福祉学部教授）

事例紹介：竹内健悟（障がい者福祉事業所法人理事） 鈴木由紀子（障がい者福祉事業所職員）

研修（2）「障がいのある子ども・若者のセクシャリティ教育」・性教育の現状と課題

日時：2020年12月6日（日）10：00～12：00

講師：伊藤修毅（日本福祉大学子ども発達学部准教授）

事例紹介：鉄井史人（小学校特別支援学級教諭）

研修（3）「思春期の心と体の変化」～医療現場から見る「性」の現状と課題～

日時：2020年12月20日（日）10：00～12：00

講師：伊藤加奈子（ココカラウイメンズクリニック院長・産婦人科医）

事業の成果

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集合型研修を変更して3回の研修を全てオンラインにて開催したところ、地域を超えて多数の申込があり、北海道から沖縄までまさに日本各地から参加いただくことができた。

研修（1）申込者：92名、当日参加者：78名（参加率84.8%）

研修（2）申込者：93名、当日参加者：76名（参加率81.7%）

研修（3）申込者：90名、当日参加者：77名（参加率85.6%）

3回通したアンケートの結果では、「講師の話はいかがでしたか？」の問いに対して、大変良かった・良かったを合わせると89.1%が良かったと回答。

「内容はいかがでしたか？」の問いに対しても、大変良かった・良かったを合わせて88.4%が良かったとの回答が得られた。

また、「今後同様の研修が開催されたら参加したいか？」の問いに対して、78.9%が「参加したい」と回答している一方で、「同様の研修に参加するとしたらオンラインが良いか？」の問いに対して、66.0%が「オンラインで参加したい」と回答しており、オンラインの需要も一定層あることも浮き彫りになった。感想の中には、支援者同士の学びの機会がまだまだ少ないことや、学びの継続の必要性、事業所内で実践の機会を増やしていきたいなど、積極的なコメントも多く寄せられた。

【参加者の感想 (一部抜粋)】

- ・性と生に対して向き合う学びについて、具体的なことを含めて支援者のなかでも足りないことを改めて感じました。
- ・大変分かりやすかったです。自事業所でも試してみたい実践例も聞けて良かったです。
- ・保護者の方が悩まれている事への解答のいくつかを、今回得る事が出来たように感じております。
- ・思春期の子どもたちが何に生きづらさを抱え、何を問題としているのかということや思春期の子どもたちならではの性の問題など知る機会となり、学び多い時間となりました
- ・学べる機会をいただき、感謝しています！子どもたちが興味を持てるような性と命について、人との関りについて、トラウマや自慰行為での強い刺激の話、妊娠に関わる話など具体的な話が盛り込まれていて、聞きごたえがありました。
- ・大人が性教育の正しい知識や新しい知識を持っていないことを、この研修を通じてあらためて実感しました。子どもたちにとって何が最善か考え現場で活かせるようにしていきたいと思いました。

るためにも、保護者・支援者向けの基礎研修（オンラインまたは対面）は継続的に実施したいと考える。

それを踏まえて次年度以降は、基礎研修後の (1) 実践型の応用研修、各事業所の実態やニーズに沿った (2) 事業所単位での研修会・勉強会の実施、研修 (3) 当事者（障がいのある子ども・若者）向けの勉強会の実施につなげていきたいと考える。また、研修に使用しているテキスト『Studybook』の内容も最新のものに加筆・更新していく必要があるため、著者（3名の講師）と連携しながら、改編し、研修等で活用していきたいと考える。

■ 成果の広報・公表

- ・当法人ニューズレター『子まち通信 36号』
2021年1月発行に掲載
配布先：当法人会員（個人会員 名、団体会員 名、情報会員 名、賛助会員 名）
本プロジェクト関係者（10名）、昨年度までの別事業協賛企業（60社）など
- ・別途報告書を当法人 Web サイトへの掲載（予定）

■ 今後の展開

本事業の目的を達成し、理解者のすそ野を拡げ